

安田要害山山頂から東側の
大山を望む。撮影日はあい
にくの曇りでしたが、正面
に望むことができました。



雲伯を眺める安田要害山

鳥取県境にある安田要害山の登山道の整備を行いました。標高281メートルの山頂からは、伯太町をはじめ、大山や弓ヶ浜半島などが一望。これからのシーズンに出かけてみませんか。



安田要害山

標高281.2m。安来市伯太町安田関。長台寺本堂裏に登山口と看板があります。古代から祭祠や見張場として利用され、戦国時代は月山富田城の支城として重要な役割を果たしました。

山頂からは縦走で、米子市側の母塚山(275m)につながります。

国境にある安田要害山

市内の学校の校歌に数多く登場する大山。出雲地方から仰ぎ見る姿が美しいことから「伯耆富士」と呼ばれています。この伯耆富士を眺める絶好のスポットが市内にあります。

鳥取県境の伯太町安田関。古代には「手間割」と言われる割(関)が置かれた所です。この地にそびえるのが「安田要害山」。要害と名付けられていることから、国境警備ににらみを効かす城塞が築かれています。

安田要害山の標高は約281メートル。整備した登山口は古刹長台寺本堂の裏手にあります。登山頂は約30分の行程。昔から軽登山・ハイキングコースとして親しまれてきました。

市では今年度、約450万円を

かけて登山道を整備しました。急傾斜部分に擬木階段を取り付け(5カ所・134段)、登山しやすしい道になりました。

防衛拠点としての側面

月山富田城を本拠地とした尼子時代には、同城を守る防衛線として安田要害山も城砦化。尼子十砦の一つとして数えられています。尼子軍対毛利軍の戦いがあつた地でもあり、古代から中世にかけて国境の地として重要視されてきたことが伺えます。

月山富田城が難攻不落の城と言われるのは、安田要害山に代表される十砦という防衛線があつたからこそ。防衛線の山々を巡っていると、同城を中心とした守備の様子を垣間見ることができるでしょう。

大山を眺める絶好の場所

登山道の広葉樹の山道を進むと、道端には点々と石仏がありま。一体一体違う表情の顔を眺めながら山頂を目指すのも楽しみの一つです。

山頂に立つと、圧巻は目の前に見える大山。平地から見ると違つて、独立峰であることが実感できます。鳥取側の平地からそそり立つ美しい山容・伯耆富士を眺めるいちばんのスポットかもしれません。

もちろん眼下には、伯太町や米子市街地をはじめ、中海や弓ヶ浜半島を見ることが出来ます。関を見張る要衝の地であつたことを思い起こすことができます。

これから紅葉のシーズン。ぜひ一度、この景色を眺めに登山してはいかがでしょうか。